なんきしえんがっこう しえん 南紀支援学校 支援だより



令和5年2月 №5

今年度も地域の保育所や幼稚園、学校から「肢体不自由教育」に関する教育相談が多くありました。相談内容や支援・指 導方法、教材の工夫等について一部ご紹介します。学校等で取り組める内容がありましたら、是非ご参考にしてください。



たとえば・・・

- *運動や手指の動きについて→(支援だより No.4)
- *介助の仕方について
- *車椅子や装具、身体的補助具について
- *給食・摂食指導について
- *発音等ことばについて→(支援だより No.2)
- *てんかんへの対応について
- *校内施設・設備や教室環境について
- *体育や自立活動の授業について
- *個別の指導計画作成について など…

【いすや机について】⊳姿勢が崩れたり、猫背になりやすいのですが、いすは合っていますか?

▷学習しやすい机などはありますか?

『特別支援いす』 手すりや高い背もたれが付い たいすで、左右への身体のず れも少し防ぐことができます。





『カットアウトテーブル』 車いすを使用する子どもが、身体に 机を近づけられるよう、テーブルがカ ットされており、肘を着いて姿勢を支 えることができます。通常の児童生徒 机よりも天板が広く、また高さを調整 できる機能がついた机もあります。





座面の奥行きや幅、足下を一度見てくだ さい。身体に対していすが大きくないです か?そのような場合は、座面に滑り止めシ ートをしいたり、背もたれや手すりの内側 にクッションマットや発泡スチロールのブ ロックを固定したり、足台に牛乳パックな どを置いて調整したりする工夫ができま す。また、身体に合わせて作製するモール ドクッションも姿勢が安定します。



【給食・摂食指導について】 ▷食事中よく姿勢が崩れてきます。 ▷上肢が上手く使えず困っています。 ▷噛まずに丸呑みすることがあるのですが…。

子どもたちの食べる機能の発達 段階を知り、正しい姿勢と介助方 法で適切な食形態のものを提供 することが大切です。指導にあた ってのポイントをお伝えします!







食器が動かないようにするための滑り 止めシートや、特別食器(片側に手を 添えやすいよう縁がついており、内側 が深く傾いているのですくいやすい) があります。スプーンは、口の幅の約3 分の2の大きさがベストです。柄を握り やすくするシリコングリップもあります。

食形態

大きさ

硬さ

とろみ

ペースト食やキザミ食な ど、子どもの摂食機能に 合わせて上記の3点を考 慮することが大切です。

いす・机(食事姿勢)





- ①机は肘の高さ
- ②膝を90度に曲げ、足 底を床につける
- ③机といすの間隔は握り こぶし一つあける
- ④ 肘の高さを調整する 台(すくいやすくなる)

『おいしく・楽 しく・安全に食 べる』には子ど もとの信頼関 係を築くことが 大切です。

【校内の施設・設備ついて】 ▷身体が不安定で一人でトイレができません。 ▷階段や段差の注意事項は? ▷水道の蛇口の開け閉めが難しいです…。



歩行が不安定な子どもさんが安全・安心して生活を送るためには、手すりが必要です。校内の環境を整え、一人でできることを増やし体験を積み重ねることで、自立に繋がります。

身体が小さい子どもさんには、幼児用便座や足台を用意することで安全に座ることができます。手すりがあると自分で座ったり立ち上がったりでき、姿勢も安定もします。



危険であると 思われる角に は、転倒に備 えて保護材で カバーすると 安全です。



少しの力で操作できる水道の蛇ロハンド ルです。

> 出入り口の段差 を埋めるスロー プがあると、車い すがスムーズに 通れます。



【自立活動ついて】 ▷どのような指導内容を取り上げて行っていますか? ▷自立活動は、いつ指導するのですか?

自立活動の内容(6区分27項目)から、その子どもの実態に応じて「必要な項目を相互に関連付けながら」指導を行うことがポイントです。

「自立活動の時間の指導」で行う 指導を、教育活動全体の中でできるように、指導の相互関連性を大切にしながら内容を工夫して、「自立活動の指導」として取り組むことが大切です。いろいろな場面で関わることが、子どものよりよい気づきを促すことになります。

教育活動全体を通して取り組んでいる、ある地域の小学校支援学級の取組内容を一部ご紹介させていただきます。

朝30分間、昼30分間の時間を帯で設け、 支援学級の児童全員で自立活動に取り組 んでいます。毎日継続した指導が行えるよ う工夫されています。

『カスタネットハサミ』

『かんたんハサミ』

軽く押すだけで、切ったり開いたりすること

ができます。



小学校特別支援学級の 取組事例

	朝30分	昼 30 分
月	読書	手指操作
火	体操	口の体操
水	身体運動	
木	身体運動	身体運動
金	身体運動	目の運動

【補助具等について】



『書見台』 角度がついているため 見やすくなったり、姿勢 が悪くなったりすること も防ぐことができます。



『移動式ホワイトボード』 視力や視線移動に困難な 子どももいます。板書を近くで提示したり、車いすに 乗っていても書いたりでき ます。また時には、衝立としても使用できます。



【てんかん対応ついて】

▷てんかんのある子どもにどのように対応し たらいいですか?

先生方に向けたてんかんの基礎知識や、研修 等で活用できる資料が HP で分かりやすく解 説されています。



てんかん info



本校は、肢体不自由教育を専門に、子どもの身体的な障害や成長発達・学習について、また就学・進路についての相談活動や情報提供を行っています。学校生活上で気になることがありましたら、学校や関係機関等と連携しながら、一緒に考えていきましょう。ご相談お待ちしております。令和 5 年 4 月から、南紀支援学校、はまゆう支援学校が統合します。今後ともよろしくお願いいたします。

参考文献

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)/文部科学省
- ・肢体不自由教育ハンドブック/和歌山県教育委員会
- ・かゆいところに手が届く重度重複障害児教育/ジアース教育新社
- ・障害の重い子どもへのかかわりハンドブック~マルチアレンジングサポートの観点から~/全国心身障害児福祉財団